

夏から秋にかけては疲れやストレスがたまり、体調を崩しやすい季節です。

そんな時期に注意したいのは不整脈です。

不整脈にはあまり心配ないものと、早く受診すべきものがあることを知り、適切な対処をすることが大切です。

<不整脈とは>

心臓の筋肉は、電気信号によって規則正しく収縮と弛緩を繰り返し、血液を送り出しています。その時に何らかの理由で、電気信号に乱れが生じると、心臓のリズムが一時的に不規則になることを言います。

<原因>

- 1) 心臓や冠動脈に疾患がある
- 2) 高血圧や肺に疾患がある
- 3) 甲状腺機能に異常がある
- 4) 病気とは関係なく、加齢や体質
疲労やストレスの蓄積、睡眠不足

<種類>

1) 頻脈(ひんみやく)

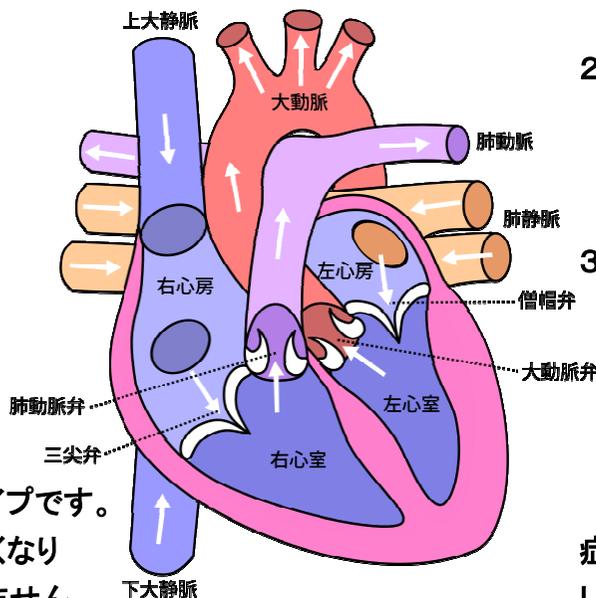
普段より脈がかなり早くなるタイプです。
運動や緊張によっても脈は速くなりますが、それは頻脈とはいいません。

2) 徐脈(じよみやく)

通常より脈がかなり遅くなるタイプです。

3) 期外収縮(きがいしゅうしゆく)

脈が一瞬、飛んだり、リズムが乱れて、不規則な打ち方をするタイプです。



<症状>

1) 頻脈の場合

脈拍数の増加に伴って、ドキドキという動悸が起こります。すぐに治まる場合は別ですが、さらに動悸が激しくなると、めまいや冷や汗、吐き気などを伴い、時には意識を失うこともあります。

① 心室細動

心室部で電気信号の乱れを生じ、心室が細かく震えて血液がうまく送り出せない状態のことです。

心停止による突然死の原因となります。

② 心房細動

心房部で電気信号が混乱し、脈拍のリズムの乱れなどを生じます。

血栓ができやすくなるため、脳梗塞や心不全の原因となります。

2) 徐脈の場合

脈が遅くなると、身体を動かすのが辛くなり、動くと激しい息切れを起こします。症状が治まらないときには心不全を起こしている可能性もあるので、すぐに受診する必要があります。

3) 期外収縮の場合

あまり目立った症状はありませんが、人によっては胸が何となく不快になったり、胸痛を感じることもあります。胸痛がなかなか治まらないときには、狭心症や心筋梗塞の可能性もあります。脈のリズムがバラバラになるときは、心房細動などの可能性もあります。

症状がひどくなる前に、異常を感じたら早めに受診をして下さい。

* 特定健診及び癌検診は 10 月までです。

まだ受けられていない方は、お急ぎ下さい。

